



能古博物館だより

展示品の木造ヨット—元西鉄ヨット部所有スナイプ級—の前で曲目解説をする大山平一郎さん



寛 原
み を 頂 戴 し ま し た 。 ま た 、 お 昼 の 弁 当 と 飲 み

南冥没後2百年 初の催しに挑戦

☆バスで巡った亀井一門の足跡☆
☆「海の部屋」で室内楽☆

理事長兼館長 原 寛

亀井南冥没後2百年に当たる本年秋、本館が最も重視する南冥一門の顕彰事業として福岡市内のゆかりの地をバスで巡る特別企画を2回にわたって実施しました。

また館内で一番見晴らしのいい『海の部屋』では弦楽四重奏のミニコンサートを開きました。いずれも初めての企画です。

時あたかも本館の母体である亀陽文庫が朝倉市秋月(福岡県)に誕生して40年、能古島移転25周年の節目と重なり、有意義な催しになりました。館の知名度向上にも一役買った印象です。

お力添え頂いた福岡市博物館、(公財)福岡市文化芸術振興財団、協同組合唐人町プラザ甘棠館、劇団シヨーマンシップ、浄満寺、表千家吉田宗修社中、西区歴史よかとこ案内人連絡協議会の皆さんに対し、誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

(3面に関連記事、4、5面に見開き写真特集)

☆

舞台裏の楽屋話をご紹介しますと、バスを仕立てる企画は準備に約半年間を要しました。とりわけPRの方法や費用が難題でした。幸いにも開催日程が市政だ

物(協組)唐人町プラザ甘棠館が提供して下さると知ったときは「千天に慈雨の思いでした。」

2回とも秋晴れの好天に恵まれ、参加した約50人の皆さんは6時間余の学習を満喫されたのではないかと思います。しかし、この行事の決算はおひとり3千円の参加料を徴収したにもかかわらず、かなりの赤字でした。来年以降になんかどう見直したらよいか。大きな課題が残りました。

☆

一方の室内楽コンサートは館が主導した行事ではなく、主催者から持ち込まれた企画でした。きっかけは館を訪れたリーダー大山平一郎さんの一言、「窓外の眺望をバックにコンサートが出来ないか。」

ご存知のように「海の部屋」は手狭です。ところが指揮者や音楽監督として世界で活躍する大山さんの目には、「博多湾の景観」が魅力的に映った様子でした。

館としては大歓迎。「主催」は市文化芸術振興財団と福岡市。館は「共催」という形で夢のような企画が実現しました。

かくして30回目を迎えたコンサートは、「in能古博物館」のサブタイトルのもと2回に分けて行われ、「海の部屋」は弦楽器のやわらかな音色に包まれました。

「福岡の元気玉」亀井少栞

安村敏信

実践女子大学の仲町啓子教授の科研調査旅行(日本の女性画家研究)にオプザーバーとして呼んで頂いて、24年ぶりに福岡の能古島へ渡った。島には福岡藩の儒医、亀井南冥、門の業績を顕彰する能古博物館がある。

南冥の孫に亀井少栞(かめい・しょうきん)という女性画家がいる。私は、東京・板橋区立美術館で開催した「江戸の閨秀画家展」の成果で知った能古博物館所蔵の少栞作品調査のために1990年、初めて能古島に渡った。その折、初代館長庄野寿人氏より懇切なご案内を頂き、すっかり能古島が好きになってしまった。

少栞は祖父南冥の薫陶をうけ、詩書画に長じ、秋月の女性詩人原采蘋(はら・さいひん)と幼少より親交した。



少栞の作品を調べる実践女子大の調査チーム(9月2日、本館1階研修室で)

少栞の絵の特色は筆の勢いの良さにある。四君子を得意とするが、とりわけ、菊図はまるで花火が夜空に打ち上げられたかのように菊花が四方に飛び広がる。掲出の「於多福図(おたふくず)」でも少栞の荒々しい筆使いの一端を垣

間見ることができよう。一筆描きのような衣裳、大胆に描かれた長い髪とバツサリと斜線で表わされる横髪(?)。素人っぽさがあるふれる絵だが、それを筆の勢いだけで強引に画面を作り上げてしまう大胆さ。少栞画の持ち味はここに極まる。



亀井少栞「於多福図」(福岡・能古博物館蔵)

今回の調査では、能古博物館所蔵の作品30点足らずを拝見することが出来、大満足であった。翌日、福岡市博物館で再び少栞作品を含めた女性画家の作品を30余点拝見した。

かつて、板橋での閨秀画家展の宣伝記事に「江戸の元気な女たち」という題をつけたのだが、その「元気玉」の筆頭が亀井少栞であったことを改めて思い出した。能古博・福岡市博で60点近い少栞作品に接し、まさに少栞は福岡の元気玉に間違いないと確信した次第である。

(筆者の了承を得てブログから転載しました。文章は少し短かくしています)

やすむら・としのぶ 1953年富山県生まれ。東北大学大学院博士課程前期修了。2013年3月まで板橋区立美術館館長。学芸員時代は江戸文化シリーズと銘うち、江戸時代の日本美術のユニークな企画を多数開催。4月より、萬(よろず)美術屋として(活動をスタート。著書に「江戸絵画の非常識」(敬文舎)、『狩野一信 五百羅漢図』(小学館)など。

博多座で唐人歌舞伎

『亀井南冥伝』金印の謎を生んだ男』

劇団シヨーマンシップ創立20周年記念

福岡市・唐人町の甘棠館SHO W劇場を足場に地元福岡市の史劇に取り組む劇団シヨーマンシップ(仲谷三志座長は創立20周年を迎え、12月24(水)、25(木)の両日、博多区下川端の博多座で記念公演「亀井南冥伝」金印の謎を生んだ男』(協力・亀陽文庫 能古博物館)を開催。狂言師の野村万録さんと講談師の神田紅さんが友情出演する。

公演は24日が午後7時、25日は午後6時半(開場1時間前)。入場料(全席指定・税込)はS席前売り4千5百円(当日5千円)、A席前売り3千5百円(当日4千円)。



公演に先立ち9月27日夕、甘棠館SHO W劇場で制作発表を兼ねた決起会が関係者100人余を集めて開かれ、仲谷三志座長(写真中央)ら出演者が紹介された。

企画展

～貝原益軒没後300年・亀井南冥没後200年記念～
益軒・南冥と筑前の学者たち

福岡市博物館(早良区百道浜・電話092-845-5011)では、貝原益軒(1630～1714)没後300年、亀井南冥(1743～1814)没後200年を記念して、両者の偉大な足跡と福岡藩で活躍した様々な学者達を紹介する企画展を開催する。

会期は2014年12月9日から15年1月18日まで。休館日は月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し、翌平日に休館)

※年末年始の休館日は12月28日から1月4日まで。



「ホラ!あの世界地図をご覧ください」大山さんは世界一周ヨットの航跡図を引き合いに「音楽の世界」を語った



『アトリエ
ラウンジ
・コンサート
in 能古博物館』

[出演]

ビオラ
第1バイオリン
第2バイオリン
チェロ

大山平一郎
加来洋子
方愛子
緒方永野
永野紗佑里



開演を待つ人々。子どもたちもやって来た



熱心なりハーサルは3時間余に及び大山さんは汗びっしょり

「プログラム」

・モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジークより
第2楽章 ロマンズ・ハイドン／弦楽四重奏「皇帝」より
第2楽章・バッハ／チェロのための無伴奏組曲 第2番
より プレリユード・バルトーク／2台のヴァイオリン
のための小曲集から・バイオリンとビオラでタンゴを2
曲・フランク・ブリッジ／アイリッシュの旋律

島内外から熱心なファンが
次々に訪れた



女性職員が野の花を飾った



窓外に広がる博多湾



演奏者の横顔

◆ビオラ 大山平一郎 京都生まれ、両親とも福岡市出身。米国サンタバーバラ室内管弦楽団音楽監督兼常任指揮者。1979年ロサンゼルス交響楽団の首席ビオラ奏者に就任後、指揮を学び始め、1987年副指揮者に任命される。1999年から5年間、九州交響楽団常任指揮者。2004年から2008年まで大阪交響楽団音楽顧問、主席指揮者。2005年福岡市文化賞受賞。2014年サンタバーバラ市から文化功労賞を贈られる。

◆第1バイオリン 加来洋子 東京音楽大学バイオリン科卒。響ホール(北九州市)室内合奏団員。2004年同団の英国ツアーでロンドン、グラスゴウ、ケンブリッジ、カーディフなどで公演。現在は室内楽を中心に演奏活動を行う。

◆第2バイオリン 緒方愛子 熊本県出身。福岡教育大学芸術コース(音楽領域)卒業。2005、7年イギリス湖水地方音楽祭に参加。第50回北九州芸術祭クラシックコンサート弦楽器部門優秀賞受賞。

◆チェロ 永野紗佑理 宮崎市出身。東京芸術大学音楽学部卒。第13回宮日音楽コンクール最優秀賞及びグランプリ、全日空ヨーロッパ賞受賞。第31、32回霧島国際音楽祭で堤剛氏のマスタークラス受講。

文化芸術情報館アトリエ

文化芸術の普及振興を目的に(公財)福岡市文化芸術振興財団が運営する施設。福岡都市圏を中心に文化芸術イベント情報の提供やお得な優待割引チケットの販売などを行う。福岡市博多区下川端町の博多リブレイン7階(福岡アジア美術館内)にある。電話092(281)0081。

『訪問と浄満寺でのお茶席』



午前9時半。地下鉄姪浜駅北口をスタート



車中解説の吉田特別学芸員(久留米大学准教授)



福岡市博物館(百道浜)では金印を中心に宮野弘樹学芸員の説明を聞く



亀井南冥生誕地(姪浜)で西区歴史よかとこ案内人岡崎幸雄さんの説明を聞く



「東西南北(よもひろ)館」で落語「南冥と金印」を聴く。粗忽家勘朝さんの本職は福岡市職員。

10月25日と11月15日の2回にわたって開催した。貸し切りの中型バスに乗った参加者は南冥生誕の地、姪浜を振り出しに市博物館(百道浜)↓東学問所・修猷館跡(赤坂)↓西学問所・甘棠館跡(唐人町)↓浄満寺(地行)のコースを6時間近く掛けて巡った。

唐人町では甘棠館跡に建つ「甘棠館劇場」で劇団「ショーマンシップ」の寸劇「亀井南冥伝・序章」(10月25日)を観たり、東西南北(よもひろ)館でアマ落語家粗忽家勘朝さん(福岡市職員)の落語「南冥と金印」(11月15日)を楽しんだ。この後、

(協組)唐人町プラザ甘棠館心づくしの弁当とお茶でひと休み。各商店が持ち寄った餡(あん)パンや竹輪、文房具、絵はがきなどが入った紙袋が全員にプレゼントされた。

最後は亀井二門が眠る浄土真宗本願寺派・浄満寺へ。まず2008(平成20)年に移転改葬した二門の墓前で遺徳を偲び、ついで本堂で前任職井浦順爾さん(佐賀龍谷学園理事長)の講話を伺った。締めは表千家吉田宗修社中のお茶席。庫裏でお薄とお菓子を頂き、さまざまな出会いがあった1日を振り返った。



唐人町の甘棠館劇場で劇団ショーマンシップの寸劇を観る
右から2人目と円内は座長の仲谷一志さん

《写真特集》『バスで巡る旧蹟』



唐人町プラザ甘棠館1階の「東西南北(よもひろ)館」で同館心づくしの昼食をとる
左端は上原孝正さん(唐人町プラザ甘棠館代表理事)



本堂で前住職井浦順爾さんの講話「亀井南冥と浄満寺」を聞く



移転改葬した浄満寺(地行)の墓所に詣でる



ソフトバンクホークスの地元唐人町では優勝と黒田如水ブームにあやかったイベントを開催していた



6時間余のツアーは吉田宗修社中の呈茶をファイナーレになごやかに終った



最後は庫裏で薄茶の接待
表千家吉田宗修さん(左)社中の心づくしのお茶とお菓子を頂く



見事なお点前を見守る(左から)正客の井浦前住職、友の会の会員高山博光(福岡市議)夫妻



お点前(てまえ)を披露したヤングトリオ

映画『夏休みの巨匠』クランクアップ

能古島と福岡市内を舞台にロケを行った自主製作映画『夏休みの巨匠』は9月29日、15日間の撮影日程を終えた。最終日、中島良監督(30歳)は能古博物館で自らカメラを回し、玄関内に飾られた櫓(ろ)漕ぎ木造和船(全長4.5m)を撮影し

・寄稿・

入江 信吾

能古島を舞台にした映画『なつやすみの巨匠』は、おかげさまで先日クランクアップを迎えました。天気にも恵まれ、とてもいい画(え)がたくさん撮れました。きつと素敵な作品になると自信を持って言えます。



主演の野上天翔くん(10歳) 写真には2週間ほぼ毎日出番があり、本当に大変だったと思います。オールアップの日は帰りの車中で感極まり、号泣していたそうです。半年前のオーディションからめざましい成長を遂げた裏には人知れぬ努力があったのでしょう。素晴らしい演技です。

ロケ中、島民の皆さんには大変お世話になりました。ご自宅や別荘をスタッフの宿泊や撮影にご提供下さった方々、炊き出しのボランティアや差し入れをして下さった方々、本当にありがとうございます。

オフの日にはアイランドパークのキャンプ村でスタッフ、キャストを集めバーベキューをしました。月明かりと爽やかな夜風、波の音が日々の疲れを癒してくれた気がします。ある時は獲れたての魚を漁師さんから頂き、「ざっこ」の店主松原さんが刺身と煮付けにして下さったこともありました。そういう様々な思い出が今でも頭をよぎります。映画作りは島民の皆さんと一緒に築き上げたお祭りのようなものだったと思います。

とはいえ映画は作るだけでは終わりません。今後は全国上映に向けて営業活動をしていく必要

た。

映画は来夏、福岡市内の常設館を皮切りに全国公開を目指す。原作と脚本を書いた福岡市出身の入江信吾さん(37歳)にロケの裏話を寄せてもらった。

があります。我々は一般映画のやり方とは異なり、映画館にはこだわらずに上映していくつもりです。要請があれば公民館や図書館、市民ホール等へもこちらから参ります。

福岡市と連携し、能古島での上映イベントも計画しております。公開は2015年6月の予定です。どうぞお楽しみに。



モニターで映像をチェックする入江信吾さん(中央)と中島良監督(左)



板谷由夏さん(左)と国生さゆり(右)さん



博多華丸さんと出演の子供たち

友の会新入会員の皆さん(敬称略)

池田節子、池見葉満代、今村幸枝、合馬紘、奥田安孝、小倉智文、樺島浩子、神山広、小谷寿子、小寺健一、鈴木誠、下郡治子、中村貴富、牧健太郎

聖福病院ゆかりの聖福寺で

茶道の原型、禅宗式の茶会開く

榮西(ようさい)禅師の八百年遠諱を記念する茶会が福岡市博多区御供所町・聖福寺(細川白峰住職)で10月12日(日)開かれた。同寺は戦後の引き揚げ者援護に貢献、博多港などで救護活動を行った聖福病院(後の千早、浜の町両病院)のために寺内の建物と敷地を全面開放したことで知られる。能古博物館の常設展示「海外引き揚げの記憶」(別館2階)には同寺が寄贈した当時の飯茶碗(聖福病院の刻印)が展示されている。

榮西禅師(1141~1215)は日本臨済宗の開祖で茶祖と称される。この日は茶道の原型である禅宗式の四頭(よつがしら)茶会席をはじめ煎茶席、薄茶席が設けられ、約200人が茶の湯の神髄を堪能した。



薄茶席が設けられた大書院=昭和21年から約2年間、聖福病院の看護婦宿舎として使用された=

主な来館グループ(平成26年8月~同26年10月)

「8月」▽10日(日)菜穀火句会20人▽14日(木)原土井病院関係者40人 海の部屋使用 、「9月」▽2日(火)実践女子大亀井少琴調査チーム9人
「10月」▽3日(金)福岡市西区小学校PTA副会長会18人▽15日(水)福岡市西区歴史よかとこ案内人あこめの会77人▽18日(土)中国からの旅行者グループ20人▽19日(日)福岡市内企業の詩吟同好会OB28人▽23日(木)原看護専門学校・学生研修41人 日野原ホール使用 、「26日(日)福岡市文化芸術振興財団主催「ラウンジコンサート」81人 海の部屋使用 、「



アクセス

西鉄バス

- ・JR博多駅 博多口正面Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行:約50分
- ・天神 三越前1Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行:約30分

市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

- ・西鉄バス姪浜駅 北口
98番 能古渡船場行:約12分
- ・タクシー:約 8分

市営渡船(フェリー)

- ・姪浜-能古島間:約10分

能古島渡船場より博物館まで

- ・徒歩:約10分
- ・アイランドパーク行き西鉄バス停
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

問合せ

姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709
能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

入館料/大人400円・高校生以下無料

※団体20名以上2割引

	能古 発	姪の浜 発
1	◎05:00	◎05:15
2	06:00	06:15
3	06:30	06:45
4	07:00	07:15
5	07:30	07:45
6	08:00	08:15
7	09:00	09:15
8	10:00	10:15
9	11:00	11:15
10	12:00	12:15
11	13:00	13:15
12	14:00	14:15
13	15:00	15:15
14	16:00	16:15
15	17:00	17:15
16	17:30	17:45
17	18:00	18:15
18	18:30	18:45
19	19:30	19:45
20	20:15	20:30
21	20:45	21:00
22	21:45	22:00
23	◎22:45	◎23:00

◎印は日祝日運休 2013年11月現在

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成25年11月25日現在)

渡船場前発(能古学校前まで約2分)

時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
平日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	
土曜日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	
日・祝日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	00

アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
土曜日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
日・祝日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	38

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



公益財団法人 亀陽文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp